盛岡YMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。　No.026 2020

YMCA News 4

2020年4月10日発行
公益財団法人
盛岡YMCA
〒020-0015
盛岡市本町通3-1-1
Tel 019-623-1575
Fax 019-623-1579
www.moriokaymca.org
発行人 / 濱塚　有史
編　集 / 本部事務局

「YMCA6年目の楽しみ」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS　16 平和と公正をすべての人に

私は1年生の時からずっとYMCAに通っています。高学年になってからそれなりに休む日も増えて、週1〜3日くらいしか行けてないけど、行けば楽しいし、家でいるよりヒマな時間が少ない。YMCAという居場所が好きで、今まで通ってきました。

6年生になったら、参加できるYMCAのイベントはできるかぎり参加したいです!!理由は、4年生から最近の間、参加できたイベントは、数えるほどしかなかったからです。毎年参加しているイベントも、キャンプだけとかに限定されてきたし、友だちにも、「いっしょに参加しよう!」と言われているのに行けなかったりしていました。

4年生の時と比べて、5年生になってからは、予定の調整とかが上手になってきて、チャリティーランにも初参加できました。

6年生になれば、今よりもいそがしくなると思うけど、できるかぎりのイベントに参加して、楽しみたいと思います!!

最近、ぷらいむ・たいむ前潟校ではなわとびがブームで今、いろんな技の練習中です。イベント以外でのYMCAも最高に楽しいです。

卒業までに、なわとびの「はやぶさ」を連続でできるようにすると、決めました!!そのために、たくさんYMCAに通って、絶対成功させます!!YMCAのお泊り会にもスキーキャンプにも、今年は行きたいなー…と、思ってます。イベントの参加以外でも6年生になったら、1・2年生の子たちと鬼ごっことかたくさんして、いっぱい体を動かして、遊びたいです。

6年生になったら今までできなかったこととかいっぱいして、卒業するまでにたくさんの思い出を作りたいです。

ぷらいむ・たいむ前潟校
佐々木　眺南

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1．こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2．家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3．共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

～　卒業するリーダー・スタッフより　～

吉田莉那
(アグーリーダー)

アグーとして過ごした3年間。側から見たら意味のわからない遊びをして盛り上がったり、子どもも私も泣きじゃくりながら話し合ったり。盛岡YMCAで出会ったたくさんの子ども達・リーダー・スタッフ・親御さん・ワイズの方々、そして数えきれない多くの思い出が、今までもこれからもアグーを支えてくれています。色んな偶然が重なって、ここにこうしてみんなと一緒に居られたことがとっても嬉しいです！ありがとうございました。またいつかどこかで会いましょう♪

早坂知美
(ちょびリーダー)

皆で協力しながら何かを作り上げることにはまった4年間でした。人と関わる中でどんどん自分が変わっていきました。泣いたり笑ったり、迷ったり悩んだり…もう嫌だ！って思ったこともありますが、色々なことを全力で思いっきりさせて貰えたからこそだと思います。「失敗したら責任取ってやるから思いきりやれ」と言ってくれたカッコいいスタッフの背中を見てきました。今度は自分がカッコいい大人になって色々とお返しできるように頑張りたいと思います。有難うございました。

岡田稜平
(みんみんリーダー)

私は大学4年間、"みんみん"としてYMCAの活動に参加しました。　YMCAの子どもたち、スタッフ、リーダー、ワイズメンズクラブの人たちなど、YMCAに関わる人たちはみんな暖かく、元気をもらっていました。そして、私をたくさん褒めてくれました。私はYMCAの活動から、「IoTを使って子どもたちの教育を支えたい」という夢ができ、4月からその目標に向かって東京で頑張ってきます。皆さんには言葉では表せないほど感謝しています。本当にありがとうございました。

齊藤七彩
（トラックリーダー）

「君でいいんだよ」という言葉に、支えられ続けた4年間でした。ありのままの自分を認めてくれたこの場所で、その言葉を自分の姿で体現したくて、がむしゃらに頑張ってきたような気がしています。盛岡YMCAは卒業しますが、私の中の「トラック精神」はこれからも生き続けます。本当に沢山の人に囲まれていたんだなあと思います。

きちんとお別れを言えなかったけど、リーダー、スタッフ、ワイズメンズクラブの皆さん、保護者の方々、そして、子どもたちへ。ありがとう、グットラック！！

松平大知
(ダイラーリーダー)

スマートフォンに保存されている写真を見返すことがある。どんなに撮った写真を遡っても、子どもたちのキラキラした笑顔や、元気なリーダーたちの写真でいっぱいだ。

YMCAのリーダーとしての活動を通して得たことを一言で言い切るの難しい。それほどまでに、リーダーのときに経験したことは多い。なんとなくで入ってしまった私が、大学を卒業するまでYMCAの活動に参加し続けてこれたのも、私を支えてくれたリーダー・スタッフ・ワイズメンズクラブ、そして子どもたちのおかげです。今までありがとうございました。

尾河芽生
（ビリケンリーダー）

こんにちは！ビリケンです。今年度をもって盛岡YMCAボランティアリーダーを卒業します。4年前に初めて行った山菜とりの活動から今までたくさんの活動に参加させていただきました。幼児だった子が一人でお泊り出来るようになったり、自分の主張を他の子に伝えられるようになっていたり、子どもたちのいろんな成長を間近で見ることが出来たのが何よりの宝です。私も子どもたちと一緒にYMCAでたくさん成長させてもらえたなと実感しています。4年間本当にありがとうございました！

東彩由海
(マックスリーダー)

こんにちは！盛岡YMCAの令和元年度卒業生のマックスです。無事にYMCAを卒業することができるのも、皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。ボランティアのために始めたYMCAの活動ですが、気付けば活動やYMCAに集う方々の魅力にすっかりハマり、もっと良い関わりを、もっと楽しく！と、本気で楽しみ、本気で自分や相手と向き合った4年間になりました。YMCAで過ごした時間は宝物です。今までマックスと関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。これからも仲良くしてください！

湯澤直希
(タイヤリーダー)

岩手県立大学ソフトウェア情報学部を卒業した湯澤直希です。タイヤというリーダー名で活動していました。YMCAでの活動を通じて子どもたちやスタッフ、リーダーなどたくさんの人たちと関わることができ、多くのことを学ぶことができました。

YMCAで学んだことは4月からの社会人としての生活にも活かしていきたいと思います。支えてくださった皆様、今まで本当にありがとうございました。

小野史織
(キューピーリーダー)

こんにちは、キューピーです。このたび、岩手大学理工学部の課程を終了し、盛岡YMCAも卒業の運びとなりました。YMCAでは大学生活4年間では知り得なかったことや信頼し合える仲間たちとの出会い、実際に動くことで得られた経験など、たくさんのことを学びました。

4月からは東京で大学で学んだことを生かすような職業に就くことが決まりましたが、ここで得たことをこれからの社会人生活で生かしていきたいです。今までありがとうございました!

「子どもたちと一緒に挑戦」

本町センタースタッフ
野澤朋華

「怖い。」私は小学生の頃、新しいことに挑戦した時、先にこの気持ちが出てしまう子どもでした。子どもの頃に、挑戦しておけば良かったことを、挑戦せずに大人になった事を後悔していました。

しかし、YMCAに就職して、子どもの頃に挑戦しなかった事や、大人になってから挑戦しなくなった事を、子どもたちと一緒に挑戦出来るようになった事が私の財産です。子どもにとって当たり前の遊びを一緒に遊んだり、悩んだりしていた毎日が、今思うと幸せな事だったんだと実感します。大人の目線では見つからない発見を、子どもたちから沢山教えていただきました。子どもに伝わる話し方、人前に立って話をする難しさ、イベントを成功するための努力など沢山の事を、「私らしく!!」経験させていただいたYMCAには感謝の気持ちでいっぱいです。楽しい1年間をありがとうございました。

2年前の3月、盛南センターに最初パートで働いていた時「子どもたちと仲良くなれるかな?」など色々考えすぎてしまい、帯状疱疹&インフルエンザのWパンチで1週間休んでしまいました。

今では、素を出せてお互いの恋バナや悩み相談をするくらいまで仲良くなり友達のような関係です(笑)癒しが欲しときや悩み相談したいときは盛南センターに遊びに行きたいと思います。2年間お世話になりました。ありがとうございました。

YMCA盛南センタースタッフ　相馬みなみ

3.11 震災を覚えて

11 住み続けられるまちづくりを

「今、私にできること」

2011年3月11日午後2時46分、今までに経験したことのない地震が発生し、津波が多くの町と人々を襲った。私は当時、三歳だった。保育園が揺れて、外に出た。すごい揺れだった。そんな中、祖父が一番に迎えに来てくれた。家は停電になった。覚えているのはそれだけだ。

私がこの日の出来事を深く知ったのは、最近のことだ。その中で、私は、岩手県大槌町の役場の様子が心に残った。役場は海の近くにあった。地震が発生し、津波が起こるまでの約35分間、役場の職員の多くが危機感を感じていなかった。そのために逃げ遅れ、40人の職員が波にのまれた。役場の建物の屋上に避難するためには、一本のはしご以外に方法が無かったことも犠牲者が増えた原因だった。生き残った人々の中には、流されていく仲間を見た人もいる。感情がうまく言葉で表現できない。ただ大槌町に限らず、被災した方々の経験を、未来へつなぐことなら私にもできる。命を守るために、あの時のことを忘れてはいけない。そして私は、今できることを精一杯やることを心掛けたい。

いつ、当たり前の日常が奪われるか分からないから。いつ、大切な人がいなくなってしまうか分からないから。また、いつ起こるか分からない災害に対しても備えをしっかりしておきたい。

ぷらいむ・たいむ向中野校　向中野小6年 西條奈知子

「震災を覚えて」

私は、今年の3月11日に『震災を覚えて』というテーマで、YMCAのみんなで会を開きました。会では、主に『リーダーから震災についての話』、『災害が起きた時の対応の仕方について』の話を聞きました。私が特に心に残っているのは、『リーダーから震災についての話』でした。私は、震災当時3歳だったため、あまり何が起こったのかおぼえていませんでした。今回、震災が起きた時の状きょう、ひなんする時の苦労、家族とはなればなれになった不安・さみしさ、津波のおそろしさについて知りました。私がもし、被害を受けた立場になったら、毎日明るく元気に生活することができないと感じました。しかし、そのリーダーは、一日一日を大切に感謝しながら、生活する事の大切さや、海の事をきらいにならないでほしいという強い気持ちを持っていると知り、とても感動しました。さらに、災害が起きた時の対応の仕方についてでは、地震が起きた時に、『落ちない所』『物がたおれてこない場所』『ガラスなどのわれるものがない所か、物が移動してこない場所』に身をかくしたり、トイレや浴室にいた時などには、ドアがゆがんで開かなくなり、外に出られなくならないように、開けておいたりする事が、自分で自分の命を守る事につながると思ったので自分も同じような状きょうになった時に、活用していきたいと思いました。

私は、この機会を通して、様々な事を学べました。震災を忘れずに語りついでいきたいです。

ぷらいむ・たいむ本町校　仁王小6年 日高千桜

※ポジティブネット⑰

16 平和と公正をすべての人に

どんな花より「タンポポ」の花

「明治橋の川原にタンポポが咲き始めました！」ラジオ中継でアナウンサーが嬉しそうに報告していた。新型コロナウィルスの影響で暗い気持ちになる中、久しぶりにホットなニュースだった。

この花について、最近知って驚いたことがある。丸くて、愛らしい姿は一見すると一つの花のように見えるが、実は多数の小花の集合体であることだ。その数は100から200になるという。そして時期が来れば小花は実になり綿毛のパラシュートをつける。こうして飛行可能になったタンポポの実は、風に吹かれて飛んで行く。

花言葉には、「別離」という意味もあるらしい。最初は一箇所に集まっていたそれぞれの花が、やがて思い思いの方向へ離散していく様子から来ているのだろう。3月は卒業式のシーズンだ。今年も盛岡YMCAからも多くの子どもたちやリーダーが巣立って行った。その一人ひとりが新しい地でしっかりと根を張り、花を咲かせていくことができますように!!　ちなみに花言葉は、『別離』より『希望』の方がいいな‥。

「野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。」

（ルカによる福音書　12章27節）

盛岡YMCA　総主事　濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

（2020年3月26日現在）敬称略

●維持会員

伊藤眞太郎、伊藤愛美、晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、花田瞳、一戸貞文、鵜丹谷三千代、中島敬泰、家村知佳、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、増田隆、川坂保宏、伊藤信彦、大関靖二、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、高瀬稔彦、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、飯島隆輔、林辰也、魚住恵、今松桂子、熊谷大樹、森山日菜乃、森山幹大、光永尚生、北田仁則、北田アユ子、東森聡、人見晃弘、尾形裕一郎、山口貴伸、井上修三、井上優子、井上浩太郎、長岡正彦、高橋友恵、水田賢次、澤田優美、平泉幸子、佐々木理香、藤原祐三、浅沼慧、浅沼美希、若井淳、及川茂夫、阿部深雪、上中優奈、植田一茂、松尾聡子、武田理恵子、佐藤洋一、菊地弘生、重石佳司、accommon、熊谷咲希、日詰教会、滝川佐渡子、淺沼誠久、高橋奈菜、水野暢夫、濱塚秋二、濱塚れい子、濱塚有史、濱塚真美、佐藤翔、古澤伸、向平悟、ちひろ、小川嘉文、濱塚直樹、恭子、小川明佑、廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、野澤朋華、魚住英昭、尾張幸久、大久保里美、中村圭一、菅原歩、武田悠、釜ヶ澤尭、齊藤優太、布引和生、ガイアリンク(株)、角谷晋次、神田橋慧一、中原眞澄、小林茂元、齋藤之彦、清水治彦、小林明彦、大塚英彦、深澤秀男、深澤多紀子、藤原祐三、熊谷一郎

●寄附金

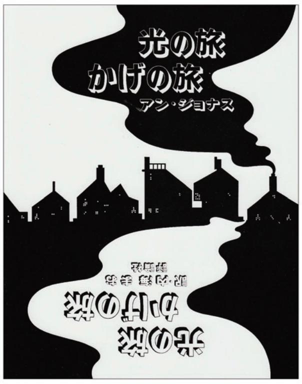
晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、家村知佳、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、人見晃弘、及川茂夫、菊地弘生、日詰教会、ガイアリンク(株)、角谷晋次、武田理恵子

最新情報はこちらでチェックできます！「盛岡 YMCA」で検索ください。
ホームページ：https://www.moriokaymca.org/
facebook：https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/

絵本コラム①

4 質の高い教育をみんなに

『光の旅　かげの旅』



アン・ジョナス作
内海まお訳
評論社

『光の旅 かげの旅』は、三つの「ない」がある、ナイスな絵本です。

一つ目は「年齢に関係がない」です。小学生からご年配の方たちまで、幅広い年齢の方々に、楽しんでいただけます。二つ目は、「時代を問わない」です。絵本の初版は、1984年でその後、コンスタントに版を重ね、33年経った今も、絵も文も古びずにいます。そして、三つ目は、「絵本が最終ページで終わらない」です。私たちの日常と変わらないありふれた旅、早朝家を出発して、大都会まで行く旅、なのに白黒の粗いコンピューターグラフィックのような絵が、大胆で美しく、しかも、どこか謎めいています。それもそのはず、なぜか絵の上部に逆さ文字。これが「絵本が最終ページで終わらない」訳となっているのです。時には子どもたちのほうが先にこの謎に気がつき、謎の探求をはじめます。さあ最終ページにたどり着きました。その最後にこう書かれています。「本をさかさまにしてごらん！」

どうぞ、絵の上下を返して絵本の続きをご覧ください。すると、新たなる夜の旅が始まります。シンプルな文と共に、さっきまで見えていた景色が、時間も空間も変化して、予想以上に美しく広がっています。シンプルな文が絵と合っていて、ビジュアルに敏感な現代人の心をしっとりと満足させてくれる一冊です。

ぷらいむ・たいむ本町校　名古屋理恵(しずリーダー)

表紙の写真から

3 すべての人に健康と福祉を

新型コロナウィルスの影響で学校が休校になったため学童保育「ぷらいむ・たいむ」の子どもたちは朝からYMCAにやってきます。写真は、3月11日の「ぷらいむ・たいむ本町校」の様子です。「震災を覚えて」というテーマで特別プログラムを開催しました。実際に体験したリーダーのお話を真剣に聞く子どもたち…そして最後には、地震が起きた時の避難の仕方を絵本を通して学びました。午後からは盛岡城跡公園で行われた「祈りの灯火」へ足を運び、地域の方々と交流をしながら、黙祷と灯籠を一緒に灯しました。これが今、私たちに出来ることです。